

上川管内 校長会	会 報	発行 上川管内校長会
		【事務局】旭川市6条通4丁目 上川教育研修センター3F TEL(0166)25-1350 FAX(0166)29-2115
		会長 南部和紀 編集 広報部
		令和4年度 第3号 (159号)

特集 惜 別

—退職校長回想集—

御 礼

上川管内校長会副会長 蟹谷正宏
(愛別町立愛別中学校)



上川管内校長会員89名のうち12名の方が、この3月をもって御勇退なさいます。皆様におかれましては、30余年間の教職生活を振り返り、万感の思いを抱いておられることと拝察申し上げます。

併せて、上川管内教育及び北海道教育における永年にわたる御活躍と御功績に衷心より敬意を表します。また、校長として、児童生徒はもとより、地域のため、そして管内教育充実・発展のために誠心誠意取り組まれ、その姿は、私たちの支えであり目標でした。

特に、令和2年2月からの3年間は、変化への対応の連続でした。感染症拡大に伴う休業措置や制限への対応、学校行事をはじめとする教育課程の急な変更、学習指導要領改訂やGIGAスクール構想への対応等々、感慨にふける暇もなく学校経営に御尽力されたことと存じます。そのような危機的状況下にあっても、沈着冷静さを失わず、私たちに温かな御指導・御助言をくださいました。改めて、この場を借りて御礼を申し上げます。

さて、皆様が教職に就かれた昭和60年頃の学校教育を『我が国の学校教育制度の歴史について』（平成24年1月、国立教育政策研究所刊）等をひもとき、教育課題に関する事柄を挙げてみます。

「教育内容の精選化」「生涯学習理念の導入」「学校教育理念の転換（完成教育理念から自己教育の基盤形成へ）」「加配要件の創設」「個性重視の原則（個人の尊厳、自由・規律、自己責任）の確立」「生涯学

習体系への移行」「変化への対応（国際化、情報化）」等の文言が目に残ります。今次教育改革の基盤となる考え方が現れた時期と言えます。さらに、「いわゆる完成教育理念を見直し、生涯にわたる自己教育を求める生涯学習の理念の導入は、条件整備や教員の資質向上が伴わず、後に“ゆとり路線”と誤解」とも書かれていました。

今次教育改革に照らすと、揺り戻し現象とも読み取れる状況であり、皆様の教職歴そのものが教育界の波の1サイクルだったと言えそうです。

ちなみに、この揺り戻し現象は、教育界だけではないようです。昭和60年は、後天性免疫不全症候群（AIDS）の恐怖が、世界に広まりました。プロ野球では、阪神のランディ・バースとロッテの落合博満が三冠王を達成しました（両名は翌年も三冠王を達成）。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大や、東京ヤクルトの村上宗隆の三冠王と重なる部分があります。また、昭和60年に北朝鮮は核兵器不拡散条約（NPT）に調印しましたが、平成5年に脱退し、今年にはミサイル実験を繰り返しています。ロシアがウクライナに侵攻するなど、世界の安全保障面では正反對の情勢に向かっている感があります。

皆様は、時代の大きなうねりの中にあっても、状況を冷静に俯瞰し、学校や児童生徒、保護者・地域の実態を見極め、組織的に対応すべくリーダーシップを発揮されました。私たちは、今後、皆様が築かれてきた「上川の教育」の理念を引き継ぎ、誠心誠意尽力してまいります。御勇退の皆様には、今後とも教育界を見守りいただき、私たちに指針を与えてくださいますようお願い申し上げます。皆様の新たな人生での益々の御健勝を祈念し、惜別の言葉といたします。



惜別の言葉

同僚との学びと協働が自分の成長に

当麻町立当麻中学校 加藤 信彦



平成3年、松山千春にあこがれ、大阪を旅立ち、北海道で教員生活をスタートしました。

初任校は北門中学校。アパート探しから家具家電の購入、ストーブの設置まで先輩教職員にお世話になり、その後も関西弁の私を温かく御指導くださいまし

した。

富良野西中学校では、若手教職員が多く、アドラー心理学や構成的グループエンカウンターなどの理論と実践方法をみんなで学び合い、何でもやってみた時期でした。

永山南中学校では、子どもに多様な活躍の場を創ろうと「学校祭の再編」や、新たに始まる「総合的な学習の時間」の指導計画作成に取り組みました。しかし、自分の思いばかりが強くて、教職員への共通理解が上手く図れず、実施1年目は苦労したように思います。

啓北中学校では、教職大学院で「校内研修」について学ぶ機会を得ました。教職大学院での学びから、授

業力向上には、校内の子どもの課題に即して、全教職員が授業を公開して学び合い、自らの授業を問い直すことが大切であると知りました。このことを自校に活かそうと、研究部長として、粘り強く教職員の理解を得ながら一人一授業公開を目指しました。教職員の協力で、年間2名から8名に授業を公開する教職員が増えました。研究協議もワークショップ型へ切り替え、授業に対するお互いの学びが深まるきっかけになったかなと思います。

その後、教頭となり、「職員室の担任」の難しさを痛感しました。一方で、校長の経営方針のもと、全教職員の協働により不登校対策の構築に一定の成果を得られたことで、教頭の役割に少し手応えを感じました。やはり、一人では何もできません。「和のないところに成果なし。」日頃から職員室の「関係性の構築」に努めることを意識するようになりました。

校長採用後のコロナ禍での学校経営。校長は、学校に一人です。校長がリーダーシップを発揮するには、やはり管内校長会の横のつながりが欠かせません。安心・安全を確保しながらの学校経営において、管内校長会や市町村校長会の仲間は心強い存在でした。管内校長会、市町村校長会には本当にお世話になりました。今後の益々の御発展をお祈りいたします。

出会ったすべての人に感謝

中富良野町立旭中小学校 川村 寿典



昭和62年6月、下川町下川中に社会科教員として赴任し、私の教員生活がスタートしました。2年生が学級増になったため、6月1日付で採用されることになりました。学校は体育大会の準備と練習の真ただ中で、着任したのを覚えています。忙しい中でしたが、教職員の皆様が温かく歓迎してくださいました。さすが、1年10か月の勤務でしたが、多くの先輩方から学級経営、教科指導、生徒指導、保護者対応などのノウハウを教えてくださいました。その後も自信をもって教員を続けることができたのも、下川中の先生方の教えがあったからこそです。

2校目からは風連中、温根別中、富良野西中、鷹栖中に勤務しました。それぞれ勤務していた年数は違いますが、どの学校でも元気いっぱい子どもたちと素晴らしい先輩・同僚・保護者・地域の皆様とともに忘れられない思い出がいっぱいできました。中でも平成5年、風連中の3年担任の時、子どもたちのがんばり

で1年間の学校行事の「最優秀賞」を独占できたこと、富良野西中時代の平成14年、全道社会科研究で授業をしたことが、特に印象に残っています。全道社会科研究では中2の地理的分野で授業をしましたが、授業者と決定した日から当日の大会終了まで、富良野西中の先生方、上社連の先輩・仲間たち、近隣の社会科の先生など多くの方々に支えていただきました。大会終了後に先輩・同僚・仲間たちと飲んだお酒がとてもおいしかったのを覚えています。

中学校5校で勤務したのち平成23年に教頭昇任となり、教頭として3校8年間勤務させていただきました。昇任直後は初めての小学校ということで戸惑うこともありましたが、3校で出会った6名の校長先生から、多くのことを教えていただき、何とか教頭職の責を果たすことができました。そして、平成31年（令和元年）、校長採用。コロナに振り回された2校4年間でしたが、どの学校でも素晴らしい子どもたち、教職員、保護者・地域の皆様に恵まれ、目指す学校経営に取り組むことができました。新採用から退職まで36年間、私を成長させてくださった管内校長会の皆様をはじめ、今まで出会ったすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

お世話になりました

美瑛町立美馬牛小学校 岸 田 賢 治



全国的に吹き荒れた「校内暴力」の嵐がほぼ収まった昭和61年4月に名寄東中学校で私の教員生活が始まりました。土曜日は午前中も授業があり、昼から部活動（未経験のサッカー）、そして日曜日にも練習か大会で1

日が終わりました。教員は土日に授業がないだけで、まったく休みがないではないか、という疲弊感でいっぱいでした。

そんな私でも少しずつ心境に変化が現れます。新卒2校目でも、まったく経験のないバスケットボール部の顧問になりました。廃部だから気楽にやっていると言われました。新入部員も募集しない、しかも指導者は下素人です。日々の練習に生徒はやはり気持ちが入っていません。このままではこの生徒たちがかわいそうだと思い、廃部は止めたい、私が面倒をみるからということで部は継続となりました。まったくの素人監督でしたが、生徒たちは私についてきてくれました。

生徒との関わりで喜びを感じた時代でした。

教頭となった当初は、多岐にわたる、しかも大量の業務に戸惑いも感じました。勤務する各学校ではそれぞれの課題を抱えており、それを一つずつ改善していく苦労がありました。そのような中、教頭間の情報共有でかなり助けられ、絆の大切さを実感しました。

管理職の仕事は、町や市の全学校や教育委員会との連携が欠かせません。その連携を通じて多くの皆様とのつながりができ、私自身の視野も広げることができました。コロナ禍では、教育活動の推進に多くの課題がありましたが、それも管理職間の協力、関係機関との連携の下で解決できたというのも管理職としてのやりがいでした。

最後の勤務地となった美瑛町は、教頭時代にも勤務させていただいた町です。美瑛町も自然豊かでとても暮らしやすい町です。今日も校長室の窓から様々な野鳥を見ることができます。私にとって癒しの風景です。

振り返れば、これまで語り尽くせないほど、本当にいろいろなことがありました。これまで務めて来られたのも、先輩や同僚の皆様、教育委員会をはじめ多くの関係者の皆様の支えがあったからこそでした。本当にありがとうございました。

ありがとうございました

鷹栖町立北野小学校 北 島 信



昭和61年4月1日付で期付でしたが、南富良野町立幾寅小学校の勤務をスタートに、上川管内2市7町15校で勤務してきました。

勤務したどの学校にもたくさんの思い出があり、語り尽くせませんが、特に印象に残っている思い出がありますので紹介させていただきます。

平成22年度の会計検査院の調査です。2月5日から1箇月間、学校の教育業務が停滞しました。教職員は協力的に準備を手伝ってくれました。とても助かりました。ただ、仕えていた校長先生が日に日にやつれていくのを見て、何事もなく調査が終わるように祈るばかりでした。

自校においての調査は、大きな問題点はなく無事(?)に終了しました。後日談ですが、校長先生に「何か大きな事案となれば、降格を覚悟していた。」と聞かされました。「教職員を守ることが校長の務め、守れないのであればやめる覚悟はしていた。」という

お話でした。その後、私は年度末ぎりぎりに人間ドック。持病悪化の宣告。校長先生はというと、規則正しく1箇月を過ごしたので、殊の外健康になられました。笑い話としてくださった校長先生には、今でも感謝しています。

他にも「教師は、学者ではありません。毎日の実践から得られるものを大切にできる実践家になりなさい。」「ビジョンをもってください。経済を語ることができる教師になりなさい。」と教諭してくださった校長先生。「30年後には、子どもたちは教科書を持って登校しない学校になるよ。」と熱く語ってくださった校長先生。とても素敵な出会いがありました。これからの校長先生方には、少なくとも5年後、10年後の学校を見据えて学校経営をしていただきたいと思う次第です。

3月をもって教職生活が終わりますが、たくさんの御指導をいただいた先輩方、そして、いろいろと御支援いただいた校長先生方がいたからこそ、今日があると思います。皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからも、上川管内校長会が、上川・北海道の教育の充実・発展に寄与していただきますよう祈念しております。お世話になりました。

ありがとうございました

名寄市立名寄東中学校 櫻庭 一也



工業大学を中退、教育大学に入学、休学してボランティア活動、卒業後は塾の講師など、回り道をしたため、29歳で教員になりました。

初任校は遠別町遠別中でしたが、着任した年には輪番だからと管内の国語研究大会の授業者となっていました。諸先輩方に御指導いただいて大会当日を迎えましたが、初任の域を超えることがない、恥ずかしくなるような授業者だったことを覚えています。しかし、教職生活のスタートが遅かったこともあり、1年目からそのような経験ができて本当に良かったと思っています。その取組を通して、もっと授業が上手になりたいと、教育誌を毎月何冊も読んだり、様々な研究会に参加したりすることが当たり前となりました。

2校目は増毛町雄冬小中でした。極小規模校で国理英体音の5教科を教えることになって準備が大変でしたが、専門外の教科から多くのことを学ぶとともに、

「つぶかご操船実習」「鮭の燻製づくり」など、地域の特徴を生かした公開研を行わせていただき、研修の大切さを学んだ時期だったと思います。

3校目は上川管内に異動し、麓郷中に赴任しました。ゆったりとした穏やかな生徒たちと、楽しく愉快的な地域の人々と楽しい時間を過ごした後、教頭として布礼別中、名寄東中、美馬牛中に赴任しました。それまでと異なる教頭業務に、最初の頃は自分に務まるのかと悩みましたが、当時仕えた校長先生方は優しく、かつ多くのことを指導してくださりました。感謝しかありません。

そして、美馬牛中、名寄東中と校長として勤務し、コロナ禍での対応や様々な変革の荒波の中で、自分のできることは何か常に自問しながら課題に向き合い、最後の年を過ごしています。

この31年間を振り返ると、それぞれの地で出会った子どもたち、保護者、地域の方々、教職員、教育長をはじめとする教育委員会の方々などの支えがあって、これまでやってこられたのだと感じています。

退職にあたって、今まで支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

軌跡が奇蹟

士別市立士別小学校 指川 文徳



昭和60年4月。当時は網走管内と呼ばれていた美幌町立北中学校に赴任した日のことが、今でも懐かしく思い出されます。小学校入学から大学卒業まで実家からの通学だった私にとって、初めての独り暮らしの始まり。

出迎えてくれた同僚や地域の方々に支えられ、採用以来7年間を過ごしました。授業力よりも生徒指導力が試される日々でしたが、プライベートでは、この地で結婚し、第一子が誕生しました。

その後、名寄中学校（第二子誕生）、旭川市内では永山南中学校、明星中学校、北星中学校に勤務しましたが、あまり運動が得意ではない私にとっての鬼門は部活動の指導でした。英語の教科指導法は大学で時間をかけて学びましたが、スポーツ指導に関しては全くの素人。ただ、そのことが幸いし、素直な気持ちで同僚や協会の方に教えを請い、様々な競技に親しむことができました。ソフトテニスの指導がメインでしたが、柔道の全道大会引率や野球・バレーボールのベンチ入

り、卓球のラケットを握りしめ地域の方の指導の下、子どもたちと汗を流したことは、今では良き思い出です。

尊敬する先輩教員の勧めで管理職への道を歩む決意をしましたが、東川第三小学校での日々は初体験の連続でした。初教頭、初小学校、初小規模校勤務。一人職としての孤独以上に、町教頭会・管内教頭会の横のつながりの大切さが身に沁みました。以後、士別中学校、富良野東中学校に異動となりましたが、教頭として出会った5名の校長先生方を、私のロールモデルとさせていただきます。「時間を大切に」「相手目線を重視」「自ら信念をもつ」「教育は愛と信頼の下」「経営のプロであるとの自覚」など、学ばせていただいたことは数えきれません。

校長採用で再び小学校勤務となり、旭川市立大町小学校から士別小学校への異動だったため、管内校長会での活動は3年間だけでしたが、研修部の役員として「啐啄」の編集を担当させていただき、たいへんうれしく思っています。未熟者の私が大過なく過ごすことができたのは、皆様の支えがあってこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。今、教職生活に一区切りをつけ、鬼籍に入るまでの希望に満ちた新たな道に進みたいと考えています。

出合いに感謝して

富良野市立烏沼小学校 佐藤 徹



たくさんの季節がめぐる中で、この3月をもって定年退職を迎えることになりました。

高校の教師を6年間、小学校の教師を32年間、計38年間の教職生活でした。

この間、様々な土地で、多くの方々と出合い、たくさんのことを学ばせていただきました。今、振り返れば、この多くの出合いが、教師としての私自身を成長させていただいたと感謝しているところです。

高校では、社会科担当で「地理」や「現代社会」などを教えていました。バドミントン部の顧問を担当し、全道大会に生徒を引率したこともありました。同僚や生徒と接する中で、教師としてのいろはを学びました。

2校目からは小学校に赴任し、高校との発達段階の違いを痛感しました。

5年生を担当したときに、社会科で「くらしを高める通信・運輸」という単元がありました。テレビ番組

などは、どのような手順にそって制作されるのだろうか。どのように教えれば児童がより理解を深めてくれるのだろうか。真剣に様々なことを考えていました。

ちょうどその頃、近くのスポーツセンターにNHKのど自慢の予選がやってくるということを耳にしました。「よし、これだ!」と思い、同僚と二人で予選に出てみることにしました。なんと予選には、約400組の方々が15組の本選を目指してオーディションにきていました。「本選に残ることはきびしいが、予選突破をめざしてがんばろう。」という気持ちで同僚とパフォーマンスをしました。な、なんと、15組の本選に残ることができました。後日、NHKのディレクターが本選に出場する15組を集めて、のど自慢の番組作りについての説明がありました。どの組が何番目に出て、衣装は〇〇で、とディレクター主導で番組作りがなされました。児童にこの経験を語り、社会科の授業は大成功に終わりました。

最後になりますが、上川管内校長会の皆様には大変お世話になりました。皆様の今後の御活躍と御健康を願うとともに、すべての子どもたちの夢の実現を願い、出合いに感謝して惜別の言葉といたします。本当にありがとうございました。

「理想の管理職」への道は遠く…

上富良野町立上富良野小学校 鈴木 伸行



明治安田生命による「2022年新入社員による理想の上司ランキング」では、男性1位：内村光良、2位：櫻井翔、3位：設楽統、女性1位：水卜麻美、2位：天海祐希、3位：渡辺直美でした。1位の内村さん、水卜

さんは共に6年連続1位です。「親しみやすい、優しい」印象が信頼できる上司として定着しているようです。上司像として「不易」の要素かもしれません。一方、渡辺さん（前年11位）のようにSNSでの人気が高く、「親しみやすい、おもしろい」印象が支持され、新たに登場してくる方もいます。時代に応じた上司像、「流行」によるものでしょうか。

私自身は「器の大きな校長になりたい」と思ってきました。それは、これまで諸先輩や仲間、言葉を選ばず自分の思いをぶつけることが多々あった私ですが、冷静に受け止め、的確な示唆を与えてくださる方々との出合いに恵まれてきたからです。「いつか自分も…」と思いながら努めてきました。が、届きませんで

した。

それでも、少しずつ成長できたのは、校長会が学びの場であったからです。多くの学びの中で、特に「気配り」と「相手に届く言葉」を意識しながら校長職を務めてきました。自校では、「子どもの変容で示す」学校経営を実践してきました。方向性を示すのが校長の務めとはいえ、教頭・教職員・保護者の理解と協力、子ども自身の取組と努力があって、初めて成果に結びつきます。一緒に取り組む仲間、常に「感謝」の思いを忘れずに、言葉にする重要性を噛みしめています。

余談ですが、(株)ジンジブが行った「現役高校生が選ぶ」一緒に働きたい上司タイプ1位：相談に乗ってくれる人、2位：周りから信頼されている人、3位：よく褒めてくれる人、上司に言われた一言1位：ありがとう、2位：がんばってるね、3位：成長したね、となっています。いつも感謝の気持ちを忘れず接するようにしてきたつもりですが…。言葉にできていたか不安です。

結びに、上川管内校長会会員の皆様には、大変お世話になりました。「上川の子供たち」の成長を支える皆様の御健勝と上川管内校長会の益々の御発展を心より御祈念申し上げます。ありがとうございました。

お世話になりました

上富良野町立上富良野中学校 富永浩司



横浜の大学を卒業して、自動車メーカー系のクレジット会社に6年間勤務しました。何か人のためになる仕事に就きたいと、29歳の時に教師への転職を決意しました。何とか登録され、教育の世界に入りました。

旭川市内の中学校に赴任し、2年生の担任としてスタートしました。教師として右も左も分からず苦労しましたが、初めて卒業生を出すこともできましたし、生徒指導や教科指導など初任者としての3年間で多くのことを学び、その後の教員生活の基になりました。転勤で中富良野町に4年勤務、その後旭川市に異動し、大規模校を2校経験させていただきました。生徒指導や部活動の指導でうまくいかず、悩んだ時期もありましたが、先輩や同僚の支えで何とか乗り切ることができました。

部活動では、子どもたちに素晴らしい思いをさせてもらいました。全道大会の決勝を促進ルールで勝ち、横浜スタジアムで敗れはしましたが、明德義塾中学校

と接戦を演じたことは忘れることのできない良い思い出です。

その後、全く考えてはいなかったのですが、先輩から「順番」と言われ教頭昇任試験を受けました。「こんな私が管理職でいいのか」といつも思っていますが、中川町で教頭となり、そこから12年続く単身赴任生活が始まりました。教頭時代は、地域の人と多く関わりをもちました。忙しかったですが、学校のことを一番よく知っているという思いがあり、やりがいを感じていました。

そして、占冠村と上富良野町で6年間校長をさせていただきました。学校には日々解決しなければならない課題があり、校長としての責任の重さを感じました。子どもにとって楽しく、保護者にとって信頼でき、教職員にとって生きがいを感じられる魅力ある学校をつくることが目標でしたが、自分の力不足を感じ反省しています。

31年間の教員生活を終えるにあたり、幸いなことに上川管内最北の中川町から最南の占冠村まで勤務することができました。生徒はもちろん同僚、地域の方々にも恵まれ、幸せな教員生活を送ることができました。助けられ、教えられ、励まされたことに対し、本当に感謝しています。ありがとうございました。

人と人とのつながりの中で

富良野市立富良野小学校 内藤晃宏



学生時代、自身が被験者になって心理査定を学ぶ実習がありました。後日、検査結果のレポートを教官(臨床心理士)に提出したところ、「ここまで動作性の低い人も珍しい。」とあきれ顔をされました。そうした私が教師として実社会に出た際、待っていたのは実に慌ただしく動き回らなければならない日々でした。

まず、小学校登録となった私が赴任したのは、町立の農業高等学校でした。町立にして義務教育ではない学校となれば、町民の方々の信頼や期待に応えてこそ存在意義を認められます。先輩方からはそのことをくれぐれも心に留めるようにと厳しく指導され、農繁期・農閑期を通して校内外を駆け回る日々を過ごしました。さらに、当時の校長の指導のもと、春と秋の数箇月間、地域の篤農家に寄宿させていただき、教師と技能実習生(?)の2足のわらじを履いたことも、忘れられない思い出です。

その後、義務教育の世界に入ってから、北は音威

子府村から南は南富良野町まで、人事異動要項に示された全ての地区と群を巡りました。その中で小中併置校や支援学級、また限られた期間ながら病院内学級の指導に携わる機会をいただいたことは、とかく自身の世界にこもりがちな私にとって、視野を広げる転機となりました。そして、締めくくりを迎えた富良野の地で2校をお預けいただき、気付けば37年の刻が過ぎていました。

ここに至り、あらためて上川管内校長会の皆様、児童生徒や保護者・地域の皆様、また職場や教育関係機関の皆様など、自身を支えてくださった方々の声や表情、様々なエピソードが脳裏に蘇ります。恐ろしく動作性の低い私が今日まで歩みを止めずに来られたのも、こうして人とつながりをいただけたからこそと感じます。

昨今、後継者育成に携わる機会を重ねるほどに、時代の変化に対応できる感性と技量を備えた人材が育っていることを実感します。その喜びと共に見えてきた自身の役割は、彼らの活躍を妨げることのないよう静かに席を譲ることと考えています。おかげさまで、実にカラフルな教職人生を楽しむことができました。このことに改めて感謝を申し上げ、先の時代を託させていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

感謝

東神楽町立東神楽小学校 堀江 充



30数年の教職生活を通じて多くの方と出会い、支えていただき勤めてこられたことに心から感謝いたします。これまで、3町2市9校で勤務しました。

新卒で赴任した厚真町では、社会人1年目の私を保護者の皆さんが温かく見守り、育ててくださいました。自信を失い、うつむいている私を励まそうとお父さんが飲み会を開いてくださったり、田植えと称して保護者宅で酒や飯をごちそうになって泊まったり、地域の温かさを心の底から感じた4年間でした。2校目は美深町。夜中の行灯づくりや雪まつり会場の設営、子ども会活動など、地域と一体になって活動した日々。保護者の年齢も近く、いつも酒を飲んでは大騒ぎしていました。3校目の士別市では自ら、青年会に飛び込み、地域のお父さん・お母さんたちとお祭りや縁日の運営、地域おこしの活動、ボランティアなど素敵な時間を共有することができました。この後、士別・名寄市の社会教育、国体事務局でお世話に

なりました。当時の職員の方々には今でもお世話になっていますが、ここでも地域や市職員の皆さんとのつながりが自分の仕事の大きな助けになりました。またこの頃、走るなんてことは考えたこともなかった私が、伴走サークルに加入、障がいのある皆さんと一緒に活動する楽しさも学ばせていただきました。

名寄では、御退任された小野教育長から学校経営を学び、自校だけではなく名寄の子どもたちのために何が出来るかを問い続けながら全力で走り続けました。名寄での19年、立場は様々でしたが、多くの児童と関わり、つながりは今も私の大切な宝物になっています。私は決して「いい先生」ではありませんでしたが、「幸せな先生」でした。最後の年に、縁あって東神楽町にお世話になりました。地域と一体の学校、コロナ禍で思うような活動ができない日々が続いていますが、いつもそばには地域の温かな支えがあります。これからも微力ながら、私も子どもたちの幸せを追求していければと思います。

最後になりますが、上川管内校長会の皆様には大変お世話になりました。会の益々の御発展と校長の皆様のお活躍と御健勝を心から御祈念申し上げます。

今まで大変ありがとうございました。

心からの感謝を込めて

富良野市立樹海学校 森田 繁



令和5年3月をもって、定年退職を迎えることとなりました。本稿執筆の御依頼をいただき、ついにその年齢を迎えた信じがたい現実と感慨深い思いが自身を包みました。

最初の赴任地は旭川市でした。いきなり担任を任せられ、先輩の先生方に教えを請いながら、毎日必死だったことを記憶しています。そこから、8校、小・中学校と義務教育学校を経験し、改めて振り返ると、多くの先輩・同僚・児童生徒・保護者の皆様に支えられ、充実した楽しい教員生活を送ることができました。中でも、私が教員を志すきっかけとなった部活動で多くの財産を得ることができました。

バスケやバレー等で子どもたちを管内大会や全道大会まで導いたことは、私の自信ともなりました。「根を養えば樹は自ら育つ」という言葉があります。基礎・基本を大切にすれば、子どもたちは自分の力で、見違えるほどに成長していきます。その姿を見ることが、教員になってよかったと思える瞬間でした。

管理職としては、12年間勤務しましたが、大事にしたことは何ですかと聞かれたら、常に現場を見て感じ、考えることと答えます。登校時のあいさつ、授業中の様子、職員室の雰囲気など、現場に近いところで感じ取るというスタンスで様々な方策を考えていました。子どもも教職員も悩まず学校に来られるように、暗い顔の子どもが帰るときには笑顔になっているように、常に思いながら職務に専念していました。保護者に対しては、「寄り添う」ということを心がけました。ただ側において、相手の立場を考えるだけではなく、信頼できる人だと思われることも大切なことだと意識しながら接しました。

最後になりますが、このように歩んできた教員生活は、振り返ってみると感謝の足跡がたくさんある道でした。特に、コロナ禍の3年間は、臨時休業や行事の縮小など想定外の事例が次々にあり、今まで、当たり前のようにできていたことができない状況が続きましたが、そのたびに保護者や地域の方々に支えられてきたからこそ、ここまで来られたと深く感謝しています。皆様、本当にありがとうございました。



新教育長のご紹介



鷹栖町教育委員会教育長

わし した まさ ひこ
鷺 下 正 彦

- ・生年月日 昭和44年10月9日生まれ
- ・出身地 上川郡鷹栖町
- ・就任年月日 令和4年11月9日
- ・前 歴 昭和63年 鷹栖高等学校卒
同 年 鷹栖町役場農政課
平成13年 企画課商工地域振興係長
平成15年 総務課庶務係主査（三鷹市派遣）
平成16年 総務課庶務係長
平成22年 農政課農業振興係長
平成24年 産業振興課長
平成29年 農業委員会事務局長併任
平成30年 健康福祉課長
- ・信 条 「千里の道も一歩から」

編集後記

本号は御勇退される12名の校長先生方の特集です。永年の教職生活を振り返っての数々の思い出や万感こもる言葉に強く胸を打たれました。これまでの御活躍に心から敬意を表するとともに御退職後の御多幸を祈念いたします。

本年度も、予定通り3号を発行することができました。発行に際し、玉稿をお寄せいただきました関係各位、御協力をいただきました各市町村校長会、会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

今後とも会報を通して、組織活動の強化・充実に努めてまいります。御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上川管内校長会広報部長 富居 充 孝

【上川管内校長会広報部】

部 長 富 居 充 孝 (土別南中学校)
副部長 小 林 勝 彦 (名寄西小学校)
部 員 田 畑 幹 夫 (布部小中学校)
部 員 加 藤 信 彦 (当麻中学校)
部 員 桑 原 久 美 (山部小学校)